

## 令和5年度（2023年度）第2回環境基本計画推進委員会 議事録

- 1 日時 令和5年（2023年）8月23日（水）10時～11時30分
- 2 場所 102会議室
- 3 出席者 近藤 高史、山本 隆明、吉原 雅哉、武富 時満、寺島 賀子、早川 権  
慈、南川 陸夫、毛利 まり子、龍田 昭一、森岡 良枝、吉鶴 弥生、田中  
治幸、千頭 聡アドバイザー（委員12名、アドバイザー1名、敬称略）  
清掃センター課長、生活環境課ゼロカーボン戦略室長、生活環境課主任、生活  
環境課主事、清掃センター主事（事務局5名）
- 4 欠席者 牲川 順一、加古 博之、榊原 弘之（3名）
- 5 会議の公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 内容
  - (1) あいさつ  
山本委員長よりあいさつをした。
  - (2) 説明事項  
令和5年度（2023年度）の年間スケジュール及び前回会議の議事録について、事  
務局より資料を用いて説明をおこなった。委員からの意見等はなし。
  - (3) 協議事項  
事務局より資料を用いて説明を行った。委員からの意見等はなし。
  - (4) 年次報告書の検討について  
令和4年度事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価並びに令和5年度以降の取  
り組み方針について事務局より資料を用いて説明を行った。  
部会に分かれて議論し、その内容について、全体会で各部会長より概要を報告した。  
ア 社会環境部会（寺島部会長）
    - ㍿ 環境の柱1  
指標1について、エコスクールの参加者数の増加理由に講座開催数が増えたこと  
があるため、今後もエコスクールの講座開催数を増やすのであれば、社会環境部会  
に関する講座も増やしていくと良いと思う。
    - ㍿ 環境の柱2  
指標3及び指標4について、降下ばいじんの数値が下がっているとしても人によ  
って感じ方が異なるため、指標に成果が表れにくく評価が難しくなっていると思う。

令和4年度に、事業所の降下ばいじん対策について、広報やホームページで紹介する内容を充実したため、令和5年度以降も継続する必要があると思う。

#### イ 生活環境部会（吉原部会長）

##### ㊦ 環境の柱1

指標1について、エコスクール参加者数を指標としているが、開催講座数の増加に伴い参加者数は増えるため、今後は、エコスクールに参加したことでSNS等を通じた情報発信や環境に関するイベントに参加した環境に関わる行動をした等、次の行動に繋がったかどうかを指標にできると良いと思う。また、エコスクールも始まってから年月が経っているので、時機を見てこれまでの活動をまとめた報告書のようなものを作ってはどうかと意見があった。

指標2について、「東海なび」のダウンロード数は増えているが閲覧数は横ばい傾向であるため、他に様々な情報媒体がある中での位置づけ等について見直してはどうかと意見があった。

##### ㊧ 環境の柱3

指標10について、太陽光パネルの設置数を増やすことは良いが、近年自然災害により設置に瑕疵があり第三者に影響を及ぼすことが想定されるため、安全対策への配慮を検討すると良い。

指標11について、らんらんバスの年間利用者を増やすことは良いが、成果の分析が浅いのではないかという意見があった。

指標12について、ポイ捨てが目立つと感じる市民は約50%となっており少なくなっているが、場所によってはポイ捨てが多い場所もあり、実際には増えているのではないかという意見があった。感じる割合ということで感覚による評価であるため、客観的に評価できる指標に見直してはどうか。

指標16について、都市公園面積が増える予定がない中で、増やすことを目標としていることが消極的な目標設定になっているため、見直したほうが良い。

#### ウ 廃棄物・リサイクル部会（事務局）

##### ㊦ 環境の柱1

指標1について、参加申し込みをWEBでもできるようにしたことが効果的で良かった。また、抽選に落ちてしまった人へのフォローアップとして、同じ講座を2回行う等の機会を設ける必要があるのではないかと意見があった。

##### ㊧ 環境の柱4

ごみの減量の啓発について、広報や情報媒体等の活用だけでなく、例えばイベン

トで水切りの実演を行い見てもらうことで、ごみの減量の実践方法が分かるのではないかと意見があった。また、ごみ袋のデザインを周期的に見直すことで、ごみ削減の方法を広く周知することができるのではないかと意見があった。

令和5年度以降の取り組み方針について、児童を対象とした環境学習を検討すると記載しており、対象とした環境学習が今実践されていないと見えてしまうため、例えば環境学習を充実させると表現してはどうかと意見があった。

#### エ 千頭アドバイザー意見

現在の計画が来年度までとなっており、新しい計画について策定作業を進めていくこととなりますが、現在の計画でどのような議論をしてきたかを、1年ごとだけではなく、計画期間中の毎年の評価を確認した上で、全体の評価をすることが必要だと思う。

#### (6) その他

事務局より今後の推進委員会のスケジュールについて説明を行った。